

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 7 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520195

 研究課題名（和文） 平安・鎌倉物語文学の享受と展開に関する総合的研究
 —絵と本文の不連続性について—

 研究課題名（英文） A Synthetic Study about the Acceptance and Development of
 Heian-Kamakura's Narrative Literature : Mismatches of the Texts and
 their Illustrations

研究代表者

鈴木 裕子 (SUZUKI Hiroko)

駒澤大学・総合教育研究部・教授

研究者番号：50248895

研究成果の概要（和文）：本研究は、平安・鎌倉物語文学の中で、絵を伴って作られ、絵とともに読者に享受された作品において、本文と絵の内容が一致をみない場合があることに着目して、その様相を考察したものである。特に、『伊勢物語』のように、多くの享受者層を得て、絵と本文の読み解きが相互に作用しあい、さらに新しい作品として再生産されていくという作品享受のありようを具体化する点、また、『平家公達草紙』のように、これまであまり取り上げられなかった作品の文学性・芸術性を発掘するという点について、一定の成果を上げることができた。

研究成果の概要（英文）：A Study about How the Mismatches Are Noticed and Happen in the Texts which Are Accepted by Readers Together with Their Illustrations. Especially In the study of "Ise-Monogatari", we can definitely confirm the various aspects of how the mutual understanding of the texts and their illustrations is worked out into the new interpretation. And in the study of "Heike-Kindachi-Zoushi", we can find out its literary and artistic nature which has rarely been studied.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：日本文学・物語文学・物語絵

1. 研究開始当初の背景

絵画化された物語作品の研究は、現在でも、

 奈良絵本や絵巻といった作品じたいの発掘
 と紹介という研究基盤の整備が急務である

ことには変わりはないが、それとともに作品じたいを深く掘り下げて読み解いていく研究も必要になってきている。

これまで多くの場合は、美術史研究と文学研究の各サイドにおいて、絵と詞（本文）それぞれが個別の研究対象として研究がなされる傾向がみられた。

そうした研究状況を背景として、絵画化された文学作品において、絵と本文が一致しなくなるという現象が生じていることに関心を持ち、絵と本文の相互影響関係についての研究を目指そうとしたのが本研究チーム結成の発端である。

2. 研究の目的

物語、特に平安・鎌倉物語が、多くの人々の手で改作・増補が繰り返されることによって、生成と享受を多層的に積み重ねた作品となったとしたら、詞（本文）と絵とが組み合わされることにより、物語作品じたいの変容がさらに複雑に、また豊かになったのではないかと推し量られる。

絵と詞（本文）との不一致（不連続）に着目することで、そうした享受の様相と物語作品の変容の過程を解明する手がかりを得たい、というのが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究の研究対象となるのは、平安・鎌倉期の物語（絵物語作品としては、室町時代末期から江戸時代に制作されたもの）であるが、まず、基礎研究として、可能な限り幅広いジャンルの絵画資料を熟覧する機会を作り、実際に多様な絵画資料に触れることで、作品絵画化の展開を把握することを心がけた。

また、絵物語作品生成の場に付随する研究として、平安物語の代表的な物語作品であり、『伊勢物語』と関係が深い『源氏物語』などの物語作品についての研究、および『平家物語』の研究も併せて、広い視野を持つ総合的な研究を進めることを心がけた。

それらの作業を基盤にして、具体的には、以下の作品に焦点を絞って調査・分析を行うという方法をとった。

(1) 『伊勢物語』の調査研究

駒澤大学図書館が所蔵する『奈良絵本伊勢物語』を中心として、その他国内諸機関が所蔵する作品を比較対照しつつ分析・考察する。

(2) 『平家物語』周縁の作品の調査研究

『平家公達草紙』の諸本を網羅的に取り上げ、その他資料として『隆房卿艶詞絵巻』なども参照しつつ分析・考察する。

4. 研究成果

絵画化された物語作品の研究は、およそ

1900年代後半から2000年にかけて、美術史研究を基盤にしつつも文学研究からの視点をも関わらせて、新たな時代を迎えた。明治期以降に海外に流出した数多くの作品の文化財としての価値が明らかにされるのに従って、国内における絵物語作品への関心も広がり深まりを持つようになり、詞（本文）の系統の研究や絵画の構図や絵の「作者」に関する研究が進むなど、作品そのものの存在とその概要の紹介が急務であった初期の段階からは前進した段階になったのである。さらに、これまで多くの場合に独立的になされてきた美術史研究と文学研究との連携が、今後の研究の進展に必要とされる段階を迎えている。

作品の絵と詞（本文）の影響関係に着目した、本研究チームは、そのような新しい研究状況のさらなる広がりや資するものとして位置づけられよう。

本研究チームの具体的な成果は、本報告書の5に記載したように、15件の論文・図書等（雑誌論文6、図書8、その他1）を世に問う形でなされている。それらを、研究内容に即してカテゴリーごとに総括すると、以下のようになる。

(1) 『伊勢物語』に関する研究

① 駒澤大学図書館が所蔵する「伊勢物語」（奈良絵本）がいかなるものであるかを精査し、その概要を発表した。絵画資料としての「伊勢物語」は、国内外におびただしい数量が残っているが、今後は、詞（本文）だけではなく絵についても、それらの系統を分類し、影響関係を探ることが必要となる。それには、個々の作品がいかなるものかを広く紹介していくという地道な営みが継続されることが肝要であり、今回一本を紹介することができたことは、そのためにも意義が認められよう。

② 他機関が所蔵する絵物語としての「伊勢物語」の絵と駒澤大学図書館所蔵の「伊勢物語」（奈良絵本）の絵との比較・対照を通して、絵と本文とが組み合わせられることによって、物語世界じたいに変容が生じる可能性を明らかにした。つまり、複数の「伊勢物語絵」を比べてみることで、絵と作品の詞との不一致（不連続）という現象が生じていることを具体的に指摘し、そこで生じる物語世界の変容が、享受者にとってどのような意味を持つかについて考察した。

(2) 絵物語生成の場に付随する研究

『源氏物語』絵巻での記述にも見ら

れるように、古代より物語は、多様な形式で造形・加工されてきており、可視化されることによって物語そのものの享受層が拡大してきたことが容易に推測される。絵画化された物語享受の場を現代に伝える最も古い資料の一つである『源氏物語』についての理解もまた重要事と位置づけて、その研究を進めた。

(3) 『平家物語』周縁の作品に関する研究

- ① 『源氏物語』成立以降、平安末期から鎌倉期にかけて数多くの物語が作り出されたが、それらもまた多くはヴィジュアルなイメージとともに享受されたことは、鎌倉時代後半以降の白描絵から江戸時代に至る『御伽草子』までの、多くの絵画資料によって窺い知ることができる。本研究チームでは、白描絵の中でも、特に、『平家公達草紙』に見られる、詞と絵の連続性と不連続性に着目してその様相を精査した。

『平家公達草紙』のようにこれまであまり取り上げられなかった作品の文学性・芸術性を発掘するという具体的な目標に、一応の総括がつけられたことは、物語絵の研究史においても新しい視点を打ち出したことになり、意義が認められよう。

- ② 現在『平家公達草紙』と呼ばれている諸本総てを熟覧・調査し、研究協力者・渡邊裕美子の参加を得て、それらの翻刻を発表した（『平成22～24年度科学研究費補助金研究成果報告書』）。これは、現存する『平家公達草紙』諸作品を網羅し、その字母を明確にした詳細な翻刻であることに意義が認められよう。

(4) 『平家物語』に関する研究

『平家公達草紙』は、『平家物語』周縁の諸作品の一つとして位置づけられてきた。『平家物語』と周縁の諸作品との交響性を考えることは、『平家物語』を形成と享受の双方向から考える研究の一環として重要な営みである。以上の観点から、『平家物語』の研究を進めた。

3年間の研究期間を終了し、研究成果をまとめた報告書（『平成22～24年度科学研究費補助金研究成果報告書』）を作成して活字媒体による公表をし、総括を行ったが、本研究には、まだ新しい知見が見出される可能性がある。よって、今回十分に触れられなかった問題点を深化させるためには、今後、研究期間中に収集した資料や獲得した知識、発掘した新しい問題点等をよく吟味して再構築す

る必要があると思量している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

- ① 鈴木裕子、阿部昌子、「解題と翻刻 駒澤大学図書館所蔵『伊勢、物語』（奈良絵本）」、駒澤大学総合教育研究部紀要、査読無、第6号、2012、pp.1～25、
<http://www.lib.komazawa-u.ac.jp/>
- ② 櫻井陽子、「延慶本平家物語と源平盛衰記の間、その三一延慶本卷十の同文記事から一」、駒澤国文、査読無、第49号、2012、pp.59～88、
<http://www.lib.komazawa-u.ac.jp/>
- ③ 鈴木裕子、「『源氏物語』の歌ことば引用・光源氏と空蟬の和歌贈答場面から」、駒澤日本文化、査読無、第5号、2011、pp.1～13、
<http://www.lib.komazawa-u.ac.jp/>
- ④ 櫻井陽子、阿部昌子、「〔翻刻〕駒澤大学図書館蔵 九行本『平家物語』卷十」、駒澤国文、査読無、第48号、2011、pp.93～137、
<http://www.lib.komazawa-u.ac.jp/>
- ⑤ 鈴木裕子、「駒澤大学図書館所蔵『伊勢物語』（奈良絵本）の概要」、駒澤日本文化、査読無、第4号、2010、pp.1～16、
<http://www.lib.komazawa-u.ac.jp/>
- ⑥ 櫻井陽子、「『建礼門院右京大夫集』から『平家物語』へ」、中世文学、査読有、55号、2010、pp.98～107

〔図書〕（計8件）

- ① 櫻井陽子、『『平家物語』本文考』、汲古書院、2013、600
- ② 鈴木裕子、『源氏物語と儀礼』「浮舟と儀礼 〈奪われた〉婚礼ということ」、武蔵野書院、2012、806中17（pp.523～539）
- ③ 櫻井陽子、『軍記物語の窓 第四集』「覚一本への伝本と本文改訂」、2012、和泉書院、492中24（pp.1～24）
- ④ 鈴木裕子、『源氏物語の礎』「夕顔」巻の和歌・「心当てに」歌をめぐる一（不正解）を導く方法一」、青簡社、2012、360中24（pp.177～200）
- ⑤ 鈴木裕子、『源氏物語を考える—越境の時空』「夕顔をめぐる物語の方法—情報の伝達者・惟光、そして右近—」、武蔵野書院、2011、234中28（pp.1～28）
- ⑥ 櫻井陽子、『中世文学と隣接諸学4 中世の軍記物語と歴史叙述』『平家物語』の征夷大將軍院宣をめぐる物語」、竹林舎、2011、638中25（pp.97～121）
- ⑦ 櫻井陽子、『清盛と平家物語』、朝日出版、

2011、211

- ⑧ 鈴木裕子、『源氏物語の展望 第八輯』「朝顔の姫君と光源氏の和歌贈答—物語世界の地脈を探って—」、三弥井書店、2010、288 中 19 (pp.15～51)

[その他]

『研究成果報告書』(平成 22～24 年度科学研究費補助金研究成果報告書)、鈴木裕子編集 2013、93

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 裕子 (SUZUKI HIROKO)
駒澤大学・総合教育研究部・教授
研究者番号：50248895

(2) 研究分担者

櫻井 陽子 (SAKURAI YOUKO)
駒澤大学・文学部・教授
研究者番号：60211934

(3) 研究協力者

渡邊 裕美子 (WATANABE YUMIKO)
早稲田大学・非常勤講師